

プレスリリース

2026年8月21日

国境なき医師団 (MSF)

エボラ病：コンゴでの流行宣言から 100 日——死者数は過去最多に 今すぐ援助の拡大を

コンゴ民主共和国（以下、コンゴ）でエボラ病（エボラ出血熱）の流行が宣言されてから、8 月 23 日で 100 日を迎える。今回の流行は同国史上、最多の死者数となった。紛争や暴力、避難、飢餓など、日々さまざまな緊急事態に直面する地域で、感染は今も危機的な速さで広がっている。

国境なき医師団（MSF）は、感染を封じ込めるための援助が十分に届いていないと訴える。症例の発見や患者の搬送、感染予防・制御について、医療スタッフと地域のリーダーへの研修を強化することが急務だ。

30 分に 1 人が死亡 死者数は 2400 人超に

この 1 週間、およそ 30 分に 1 人のペースでエボラ病による死亡が報告されている。流行開始から 8 月 16 日までに、同国当局が報告した確定例は 5000 件を超え、死者は 2400 人を超えた。

「流行は対応を上回る速さで広がり続けています」と、MSF インターナショナル会長のジャビド・アブデルモネイム医師は話す。「命を救うために治療センターは欠かせません。しかし、ベッドを増やすだけでは不十分です。感染した人をより確実に発見し、症状のある人と接触者を安全に隔離し、医療従事者を支える必要があります。既存の医療施設を受診する人びとも、感染から守らなければなりません。エボラの対応は、地域社会の周りで進めるのではなく、地域社会と共に進めなければなりません」

地域社会との連携が不可欠

イトゥリ州ドロドロ近郊のロー避難民キャンプでは、地域のリーダーが MSF と連携し、症状のある人びとに早期の検査、隔離、治療を呼びかけている。地域内で感染が広がるリスクを減らすため、感染予防・制御の対策も伝えている。約 5 万人が暮らす過密なキャンプで、こうした連携はエボラ病の感染拡大を抑え、死亡率を下げることにつながる。

キャンプで暮らす地域リーダーのエズローム・キザ・ルマニさんはこう話す。

「私たちはこの地域を知っていますし、人びとにどう働きかければよいのかも分かっています。エボラ病が入ってきた時、私たちはすぐ動きました。家族と話し、不安に耳を傾け、症状のある人には受診するよう呼びかけました。この流行を止めるうえで、私たちには重要な役割があるのです」

新たな地域にも感染が広がる

流行が公式に宣言されて以降、コンゴにおけるエボラ病の死者の 60%以上が、エボラ病治療センターの外で、

しかも多くはセンターから遠く離れた場所で死亡している。多くの人びとがケアを受けられないまま、自宅や地域内で亡くなっているのだ。これは、症例が発見される前にウイルスが広がり続けていることも意味する。懸念されるのは、流行の中心地であるイトゥリ州の外でも症例数が急増していることだ。特に北キブ州では、死亡率が高く、対応への不信感も強い。

イトゥリ州で MSF の緊急対応責任者を務めるトリッシュ・ニューポートはこう話す。

「これまでエボラ病への対応経験がほとんど、あるいは全くない新たな地域で症例が出ています。エボラ病対応の研修を受けた医療従事者が、治療センター内だけでなく、影響を受ける地域社会で活動することが早急に求められています」

今すぐ研修と支援の拡大を

MSF は現在、イトゥリ州、北キブ州、南キブ州、チョボ州、オー・ウエレ州で対応にあたっている。6 カ所のエボラ病治療センターと隔離施設を運営し、430 床以上を確保。これは対応全体の病床数の 3 分の 1 に当たる。エボラへの対応のため、MSF では 1400 人を超えるスタッフが活動にあたっている。流行開始以降、MSF は 1900 人を超える患者を受け入れ、このうち 720 人がエボラ病の確定例だった。

北キブ州ベコでは、地域社会の中で対応を進めてきた。命を救うために欠かせない一般診療も提供する既存の医療施設を支援することで、標準的な治療や症状を和らげる治療を速やかに始められるようになる。コンゴでの流行対応全体を通じ、人びとが必要なケアを身近な場所で受けられるよう、さらに取り組みを強化する必要がある。

ニューポートはこう話す。

「医療従事者と地域のリーダーには、症例の早期発見、安全な患者搬送、感染予防・制御の強化、自分自身と周囲の人びとを感染から守るための研修が必要です。世界保健機関（WHO）、国連機関、MSF をはじめとする人道援助団体、そしてコンゴ保健省は、この研修と支援を早急に拡大しなければなりません」

ロー避難民キャンプの地域リーダー、エメリー・グバ・マテソさんは、自らの経験を伝え、人びとに受診を呼びかけている。息子をエボラ病で亡くし、その後、自身も感染したが回復した。

「エボラ病から回復した者として地域の皆に伝えたいのは、最初の症状が出たら、すぐに医療機関を受診するのが大切だということです。早い段階で適切な治療を受ければ、回復する可能性が高まるのです」

以上

本件に関するお問い合わせ先：

特定非営利活動法人 国境なき医師団日本 広報担当：高橋哲子

携帯：090-5401-5176

E-mail: press@tokyo.msf.org <https://www.msf.or.jp>

メディア向け X（旧ツイッター）アカウント：@MSFJ_Press